

ろうさい病院つうしん

病院情報誌 第13号 平成17年1月1日発行

発行所：中部労災病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

“新しい年を迎えて”

中部労災病院
院長 堀田 饒



“新年あけましておめでとうございます”

今年、当院にとりまして新生中部労災病院誕生の第2次の年にあたります。昨年は第1次で、独立行政法人化により、当院の経営も独立独歩の厳しい環境下に置かれました。第2次は、9階建の新病棟が本年秋に完成し、稼動し始めることに求められます。

振り返ってみますと、“医療の質の向上”を目指し、診療内容の充実と温かい対応をモットーに、職員全員が取り組んで参った1年でした。診療内容の充実の一つに、循環器内科と心臓血管外科に取り組み、本年秋迄には、人員・診療内容いずれも当初目標をほぼ達成可能の見通しとなり、先生方の期待に応えられるものと確信しています。即ち、心疾患に関しては、緊急対応が外科的にも可能な機能を持った病院といえます。

また、新病棟完成時には、職員の対応も大きく様変わりし、容器も中味も新生中部労災病院に相応しいと先生方から評価を得られるべく、一層の努力に努めている昨今です。お気づきの点があれば、遠慮なく御教示下さい。

今後も、病診連携の先生方と一緒にあって、素晴らしい医療の提供可能な病院にしたいと存じます。本年も、従来にも倍して、温かく時には厳しい御指導をいただけますようお願い申し上げます。念頭のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

中部労災病院
副院長 小林 建仁



明けましておめでとうございます。日頃より登録医の先生方には一方ならぬご支援を頂き心より感謝しております。

医療制度の変革に伴い自己完結型志向の病院はいずれ終焉を迎えると思われ、地域医療連携こそが病院の生き残りを賭けた最も重要な課題と考えております。当院に於ける現在の紹介患者は500～600名/月、逆紹介患者は400～450名/月です。今年はこの逆紹介率を更に上げるべく努力する所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新年明けまして おめでとうございます。

中部労災病院
副院長 佐野 隆久



旧年中は先生には多数の患者のご紹介をはじめ、いろいろな事柄にて労災病院の診療、地域活動に御協力いただき、誠にありがとうございました。

当院は本年の11月には念願の新病院の第1期工事である病棟が完成いたします。新病棟は9階建て、免震構造にて556床、患者の環境設備に十分配慮した構造になります。

皆様のご利用よろしくお願ひいたします。

本年の先生のますますのご活躍、ご健康を祈念いたします。

睡眠時無呼吸症候群に対する耳鼻咽喉科的アプローチの現状と展望



耳鼻咽喉科 池田 篤彦

高血圧症の30%、労作性狭心症の35%、異型狭心症の46%、心筋梗塞の31%、脳梗塞の50%、糖尿病の35%には閉塞性睡眠時無呼吸症候群（OSAS）が合併しているといわれています。

OSASとこれらの生活習慣病は深く関わりをもっています。

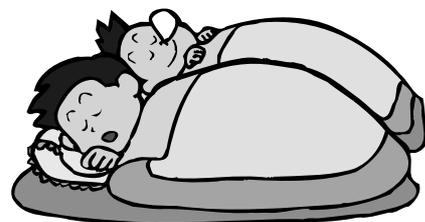
上記の病態として各科に関わりますが、現在のところ潜在しているだけで疾患として正しく評価、診断し治療されているとはいえません。潜在しているこの疾患を拾い出す医療者の眼が必要とされています。

そのために睡眠ポリグラフィー検査（PSG）が必要になります。このPSGの結果をもとにOSASの治療を決定していきます。現在最も確実な治療方法は持続陽圧呼吸療法（CPAP）です。鼻マスクから空気を持続的に送り込み、上

気道を陽圧に保って気道の虚脱・閉塞を防ぐ方法です。長期的にも生命予後を改善することが確認され、1998年4月より健康保険の適応となり、在宅での使用ができるようになりました。

当科ではPSGを平日に加えて土日祝日も行っています。仕事で忙しい方も20時頃入院し翌朝6時以降に退院が可能です。検査の予約は電話にて19時30分まで地域医療連携室（直通電話：052-652-5950）でとることができます。

OSASは最近話題の疾患で周囲の認知も高くなってきております。その中で正しい診断と治療をできるようにと考えております。



耳鼻咽喉科

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
新患・再診	池田 篤彦 医師	正木 道熹 副院長	池田 篤彦 医師	正木 道熹 副院長	秋田 学 医師
		秋田 学 医師		池田 篤彦 医師	

当院における脳血管内治療の現状と展望

脳神経外科 佐原 佳之

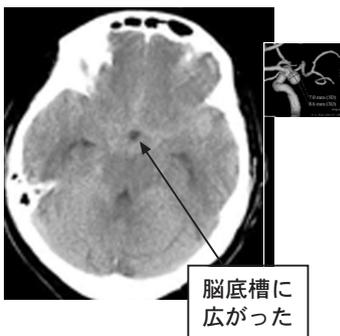


脳血管内治療は、開頭手術を行わずに脳の疾患を治療する新しい手術法で、高齢者や全身合併症の多い人にも有用です。脳血管撮影用のカテーテルの中にさらに細いマイクロカテーテルを入れ、病変部の血管まで進めて治療します。

脳血管内治療の対象は多岐にわたりますが、当院では、脳動脈瘤を中心にして年間約10-15例を治療しています。この中には、従来では高齢で治療対象とならなかった破裂脳動脈瘤や、開頭手術では到達困難な脳底動脈先端部の動脈瘤の患者さんが多く含まれています。血管内治療可能な動脈瘤がどうかの判断には血管造影での詳しい検討が必要ですが、当院では2004年9月から新しい血管撮影装置、

GE社の3D-DSA (advantx LCN Plus) が導入され、以前の血管撮影装置ではできなかった脳血管の3次元画像での観察が可能となりました。動脈瘤の形状や大きさを1回の撮影で様々な角度から観察可能で、血管内治療には非常に有利な器械です。撮影から45秒で画面上に3次元画像を表示することができ、脳外科スタッフ間で開頭手術か血管内手術のどちらが適しているかを即座に判断することができ、迅速に治療に向かうことができるようになりました。

血管内手術器具の進歩、改良は日々進んできており、当院でも脳動脈瘤の治療を含め、血管内治療の役割が大きくなっていくことが予想されます。



症例は83才女性、くも膜下出血で発症の破裂左内頸動脈瘤の患者です。脳血管撮影（3D-DSA）で動脈瘤の形状、大きさを検討し、血管内治療を行いました。

術前と術後の脳血管撮影です。動脈瘤は消失し、患者は経過良好です。

脳神経外科

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
新患・再診	関 行雄 部長	樋下田 稔昭 部長	佐原 佳之 医師	関 行雄 部長	樋下田 稔昭 部長

連携室だより

～ 病診連携セミナー開催 ～

平成16年12月3日（金）、下記のとおり中部労災病院病診連携セミナーを開催致しました。

開催場所：当院の桜盟館大会議室
出席者：登録医12名
演題：「静脈疾患（下肢静脈瘤、深部静脈血栓症）とリンパ浮腫に対する現状と展望」
演者：岩田 博英
（当院外科副部長）

質問コーナーでは積極的にご質問いただき、登録医の方々の熱意が伝わってきました。中にはあらかじめ、出欠表の余白部に質問事項を書いて下さった先生も居られるほどで、演者からご回答差し上げました。

講演会に引き続き行われた懇談会でのご意見・要望等については次のとおりです。

<登録医より>

中部労災病院の広報誌について・・・

非常に参考になるので、これからも続けて欲しい

心療内科の受診について・・・

（登録医） 以前、心療内科を受診するまでに2週間程かかった。勤労者の場合は早い治療を望んでいるのではないか？

（病院） 心療内科と検討をして行きたい

<病院より>

当院の入院化率について・・・

先生方より紹介された患者さんが、当院の入院患者数に占める割合が高くなってきています。今後紹介された患者さんの入院率データを取りまとめ、先生方に報告したいと思っています。

今後の病診連携について・・・

新病院において病診・病病連携は、地域医療連携室・ケースワーカー・在宅・入院受付等を1室に集約し、間口の広い対応をして行きたいと考えております。

その他

糖尿病に関する栄養・看護指導を自院の看護師等に教えて欲しいという意見があり検討しているところです。

地域医療連携室より

平成17年1月1日 スタート!!

* 内視鏡検査・・・お電話にて仮予約を受け付けます。ご依頼があった際日時等はお電話にてすぐに回答いたしますので、その後にFAXをお送り下さい。

* 終夜睡眠ポリグラフ検査・・・平日の時間外（17：00～19：30）でもご予約を受け付けます。

地域医療連携室

052-652-5716 (FAX・TEL 共用) 052-652-5950 (TEL) 《担当：河野・金井》